

美しく環境に配慮した都市づくり(その6)

鉄道等新線の整備 既存鉄道・バスの利用促進

2003年度～2005年度
までに開業した都市鉄道新線

<開業キロ>
13路線
約144キロ開業

つくばエクスプレス
(平成17年8月24日開業)



公共交通機関の利用促進(対策例)

約180万tの削減

IT技術の活用

・ICカード乗車券は、平成18年4月現在、25鉄道事業者、0バス事業者で導入済み。



LRT整備の促進

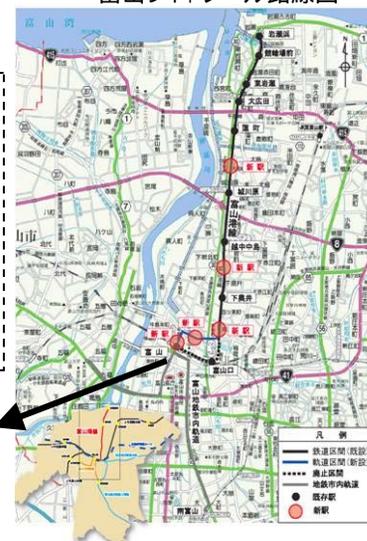
富山ライトレール(全長約8km)
(平成18年4月29日開業)

他に、全国では、宇都宮市、堺市等においてLRT整備が構想されている。



新規に軌道を敷設した区
間

<富山ライトレール路線図>



通勤交通マネジメント他

約85万tの削減

NEDOによる民生部門等地球温暖化対策
モデル評価事業

平成18年度は、現在までに18件の事業実施を決定

(例) Webサイトを活用したTFPと「あいかんサミット」
による愛知環状鉄道利用促進のための
ECO通勤推進調査事業

Web利用のTFP (Travel Feedback Program)システムを活用
した

TDM (交通需要マネジメント) 実験

共同通勤バスの運行実験

通勤者への普及・啓発

鉄道とバスとの乗り継ぎ利便性向上

広島電鉄宮島線と、新興団地などを結ぶ広電バス、
および廿日市市内を循環する市営さくらバスとの乗り
継ぎ利便向上。



公共交通機関の利便性向上

・ バスロケーションシステムの導入
全国で4,683系統において導入済み。
(2005年3月時点)

・ ノンステップバスの導入
全国で6,974台導入済み。(2005年3月
点)



美しく環境に配慮した都市づくり(その7)

環境的に持続可能な交通(EST)の実現

環境的に持続可能な交通の実現を目指す先導的な地域を募集し、関係省庁、関係部局の連携により集中的に支援
 モデル事業には、環境目標の設定・検証、取組効果の持続性の確保を求め、環境の観点から施策の効果を確保
 自治体、地元経済界、交通事業者、道路管理者、警察関係者、NPO等、地元の幅広い関係者が参加して事業を推進

モデル事業のメニュー例

環境の改善



環境改善目標の設定(CO2排出削減量等)

取組主体(事業者等)の継続的・自立的取組の確保

→ 地域における交通環境改善の先導的事例を全国に拡大

第2回特別部会国土交通省提出資料

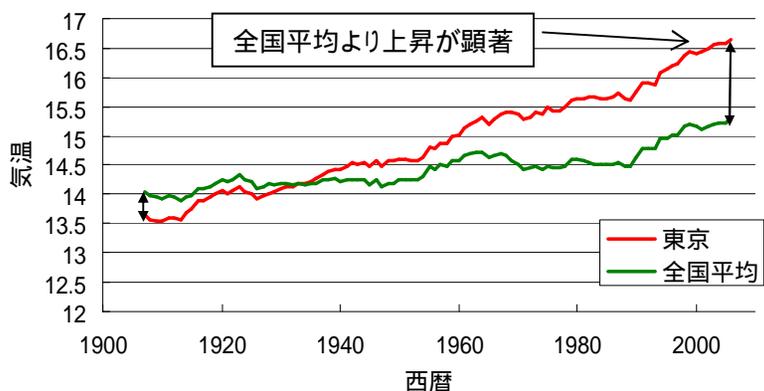
美しく環境に配慮した都市づくり(その8)

- ヒートアイランド現象 -

- 過去100年に、地球全体の平均気温が約0.74 上昇しているのに対し、日本の大都市においては平均気温が概ね2~3 上昇しています。
- 地球の温暖化の傾向に比べて、ヒートアイランド現象の進行傾向は顕著です。

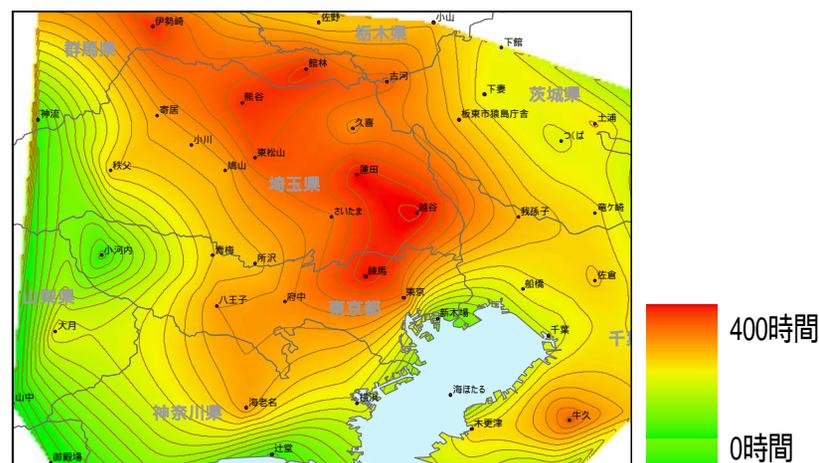
日本の大都市の平均気温(気象庁統計情報より)

地点	使用データ 開始年	100年当たりの上昇量(/100年)				
		平均気温			日最高気温 (年平均)	日最低気温 (年平均)
		年	1月	8月		
札幌	1907年	2.4	3.3	1.0	0.9	4.1
仙台	1927年	2.2	3.1	0.3	0.7	3.1
東京	1907年	3.0	4.1	2.0	1.7	4.1
名古屋	1907年	1.8	2.0	1.5	0.9	2.7
京都	1907年	2.6	2.6	2.4	0.7	4.0
福岡	1907年	2.7	2.4	2.1	1.2	4.5



東京と全国の気温(10年移動年平均)の推移比較(気象庁統計情報より)

10年移動平均とは基準年を含めて過去10年以前の平均値をとったもの



関東における30 以上時間数累計(2005年)

(出典:環境省)